

学校だより 京都市立音羽中学校

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/otowa-c/>

平成28年12月16日発行



平成28年度全国学力学習状況調査の結果

4月19日に、本校3年生218名を対象に実施された「全国学力学習状況調査」について、結果の報告をさせていただきます。本調査は、国語・数学の2教科のテストと同時に、生徒質問紙により家庭での過ごし方や学習時間などの調査も実施されております。その結果や生活習慣と学力との関係など、本校の生徒の状況をお伝えします。

総合結果

今年度は、国語・数学が実施されました。2教科とも全国平均・京都府平均をやや下回っています。“主として知識を問うA問題”以上に、“習得した知識を活用できるかを問うB問題”的方が全国平均と比べて差が少し広がっています。無解答率についても、長い文章を読んだり、根気よく考える必要がある問題について、高くなっています。基礎・基本を確実な定着を目指すとともに、最後まであきらめずに問題に取り組む姿勢を育てていく必要があります。

国語科より

国語A(主として知識)では、漢字の読み書きの問題に、今までの漢字練習の積み重ねの成果を感じられます。しかし、文章から全体の情報を深くとらえることは苦手なようです。通常の文章問題でも、鍵となる語句や文章を意識して読み込むことができないために、全体把握ができない傾向が見られます。また、言葉に対する知識不足も感じられ、そのことが文章問題の読み取りにも影響していると思われます。5~10行の短い文章とそれに対する2~3問を答える繰り返し練習が必要であると思われます。

国語B(主として活用)では、Aの問題よりも更に点数差が広がり、より多くの課題があります。叙述された事実に対して、視点を定めたうえでの丁寧な読み取りができていないものと思われます。文章(長めの文章)に対する集中力の欠如も見られ、途中で投げ出している生徒もいると思われます。これについては原稿用紙に文章をまとめたり、身近な題材を元に自分の思いや考えを短く表現する経験を積み重ねる取組を行っていきたいと思います。

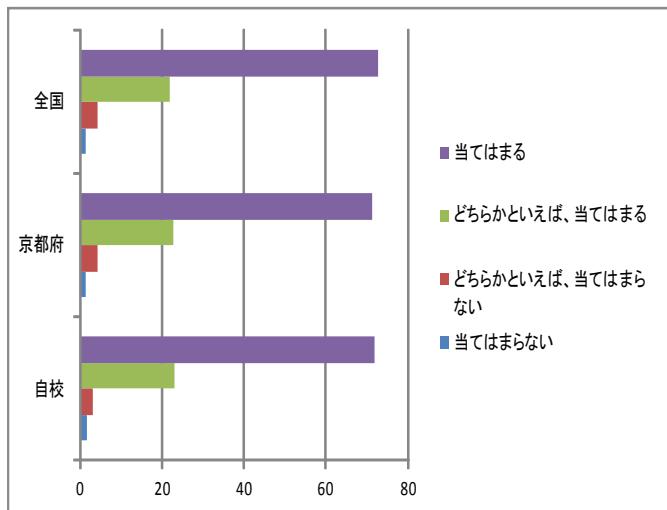
数学科より

数学A(主として知識)では、「数や式の計算の仕方」、「一元一次方程式の解の意味」、「不等式の意味」についておおむね理解できているが、早く正確に計算ができる力をもう少しつける必要があります。また、平面図形に関する基本的な知識はおおむね身についているが、空間図形の内容は、理解が不十分です。計算は出来ても、関係を式に表したり、比例式をつくる問題で正答率が下がり、関数については、定着していないことが分かります。

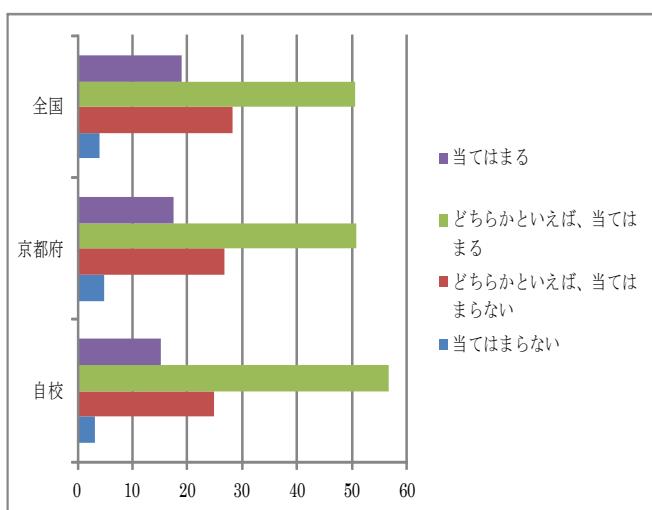
数学B(主として活用)では、共通して言えるのは、問題の文章を読み取る力に課題があります。与えられた情報から必要な情報を選択する、資料の傾向を的確にとらえ判断する、そして、数学的な表現を用いて説明することが苦手な傾向が見られます。一次関数については、解の意味、グラフや式のもつ意味がおおむね定着しており、応用問題にもチャレンジできています。「数学の勉強は好きである」、「数学ができるようになりたい」、など数学に対して前向きに考えている生徒が7割と比較的多いが数学的な力につながっていないのが現状です。分かりやすい授業を目指すとともに、自分達の身につけた力を活用する場面、言語活動の場面をさらに取り入れる必要があります。

生徒質問紙から

Q1. ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



Q2. 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。



「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかった経験」をしている生徒が7割を超え、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかった経験」についても6割を超えています。それに対して、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しているか。」というと、2割に満たないのが現状です。この消極的な部分は、学習面はもちろんのこと、様々な活動に影響を及ぼすと考えます。やり遂げて味わった達成感や自信を次につなげ、積極的に自分の可能性を広げて欲しいと思います。

数学については「勉強が好きだ、大切だ」と感じている生徒は全国平均値よりも多いのですが、基礎的な学力が定着していない生徒も多いように思われます。平日のゲームやスマホに使う時間は、全国平均に比べて多く、余暇としての時間にかなり割いているようです。「時間をどのように使うことができるか」が課題のひとつです。家庭学習の時間をどのように活用するか、何を学習するのかということを設定し、取り組む必要があります。分かりやすい授業を目指すとともに、家庭学習の大切さを確認し、理解できるまで挑戦を続ける姿勢を育ていきたいと思います。

「友達の前で自分の考え方や意見を発表することは得意か。」の質問に対して、8割以上の生徒が「得意ではない」と考えているようです。本校では、各教科の授業はもちろんのこと、学級活動、道徳、総合的な学習の時間でグループ活動、言語活動を展開しているところです。自分の意見をまとめ、発表する力はこれから社会に出ていく際に、求められる力です。今後も引き続き、様々な場面で子どもたちに自分の意見を表現する力をつけるために、言語活動を充実させる取組を進めていきたいと思います。

保護者の皆様へ

全国学力学習状況調査は、子どもたちの学力や学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果をみると、規範意識や自尊感情の高まりがみられ、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果がこれらの結果に表れていると考えます。今後も引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。